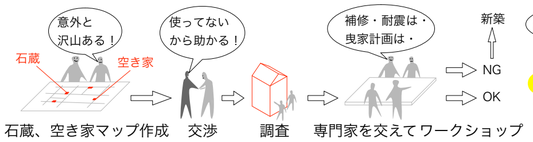
[石蔵ひろば]

人口減少、高齢化が急速に進む黒磯地域ですが、「えきっぷくろいそ」での議論によって「カワッタ家」や「もったいない市」など、空間や物の再生利用やシェア利用が根付き始めた背景があります。こういった再生利用こそ、歴史や人を尊重し新しい能動性と生活知を育むことができる、黒磯の未来の指標・目標だと考えました。そこで我々は、黒磯地域に散らばっている使われていない石蔵や空き家を 集わせて多くの人達の憩いの場、賑わい、食文化や食産業、人材の育成、黒磯の魅力発信の場に再利用することを提案し、皆さんとの対話を前提に進めていきたいと考えます。

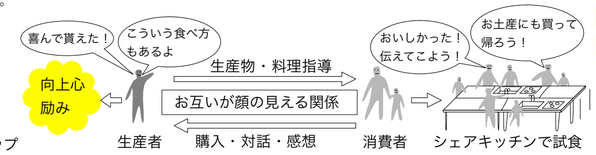
□使われていない石蔵を曳家によって再利用します

黒磯の街を歩くと、個性的な石蔵や空き家がチラホラ と見受けられます。今後、地域の皆さんや実行委員会の方々とリサーチを進め 、使われていない蔵マップを作成し曳家が可能か検証します。再利用し有効に使うための可能性や耐震診断、改修方法についての議論をして、一つずつ丁寧に集めていきます。蔵の持ち主の方には誇れる施設、黒磯の方々や訪れた方々にとっては新しく懐かしい魅力的な施設となっていくと考えます。



□生産者も消費者もお互いがみえる食環境を目指します

本州一の生産量を誇る牛乳や高糖度のトマト 、チーズ、ほうれん草など、那須地域には多くの誇れる食材があります 。いまは都内のスーパーでも 生産者の顔と名前が分かる食材が購入できます 。ただ、これは一方通行でしかありません。この施設では、生産者と消費者の対話ができる環境 を目指します。今まで一方通行だった食材のルート を双方向にし、生産者に消費者の顔が見える環境にすることで、向上心と励みに繋がり、食産業の発展に貢献でき ると考えています。

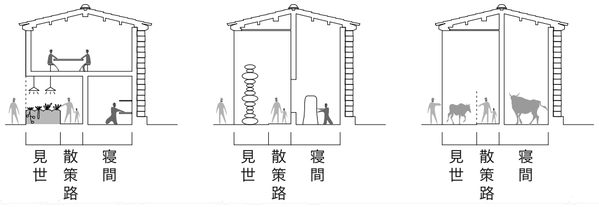


□「所有」から「シェア」へ、豊かな生活を育みます

所有＝生活の豊かさという価値観がある一方で 、シェアすることが豊かさに繋がることも多くあります。ある種の煩わしさをともなう共有ではなく 、個人では所有が難しい設備をあらかじめ用意することを提案します 。具体的にはワークショップ等で議論をする必要がありますが、例えば、テレビをシェアすることでシアタールームになったり 、趣味室をシェアすることでライブやダンスができるスペースになったり 、広いキッチンをシェアすることで蕎麦打ちができたり、風呂をシェアすることで大浴場になったり ・・・。都市部よりも生活資源となる水・森・食糧が多く残ってる黒磯地域に 、シェアの想像力やアイデアがプラスされる事で、新しく豊かなライフイメージを創出できると考えています。

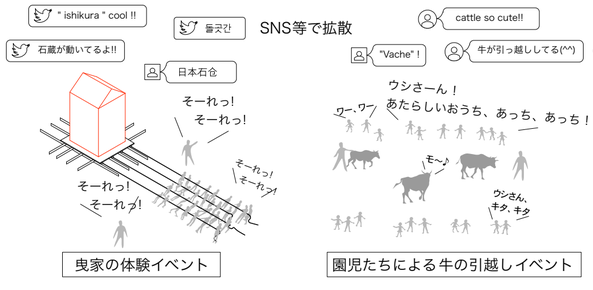
□開かれた場所、閉じられた場所、様々な空間が繋がります

黒磯地域の人々 や学生達が集い、憩いの場となるだけではなく、東京から日帰りで 通える距離にある黒磯駅前はアーティストやクリエイターなどの オープンファクトリー、スタートアップ、チャレンジショップ、サテライトオフィス などに非常に有利な立地です。移設され散りばめられた石蔵には街から繋がる散策路が貫通し、黒磯ヤードに面して開かれた(見世空間)と閉じられたバックヤード(寝間空間)に 分けられます。この(見世空間)は、温室効果のある畑になっていたり、牛が寝転んでいたり、おおきなシェアキッチンが配置されていたり 。石蔵でまかなえない棟は石蔵 の要素を取り入れた新築を計画します。多種多様なアクティビティが黒磯ヤードに溢れだし、交差し、異文化・異業種・多世代間の賑やかで実りのある交流が生まれることが期待できます。



□完成までの経過にイベントを企画し、広く伝えていきます

完成後に祭やイベントで盛り上げるのも重要ですが、完成までの経過もイベントとして広く盛り上げていきたいと考えています 。例えば、曳家や牛の引越し、改修に必要な木材の伐採、植栽の移植など。専門業者にとっては当たり前の光景も 、イベントや祭になる要素はたくさんあると思います 。できるかぎり多くのイベントと人を絡ませる仕掛けをつくり、施設と人との距離を近くすることが成功に繋がると考えています 。

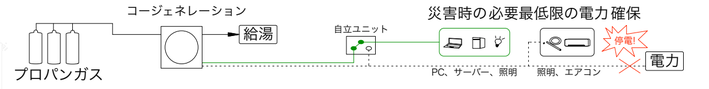


□再利用、シェア利用が前提のため、コストを削減できます

施設を分散させて計画しておりますので、全てを同時期に建てる以外にも、数期にわけて発注することが可能です。また、一部の新築以外は石蔵や空き家の再利用 が前提のため、大幅なコスト削減が期待できます 。施設以外にも街の方々の使われ てない椅子やテーブル、照明器具等を募集して、スマートにリデザインできると考えています。

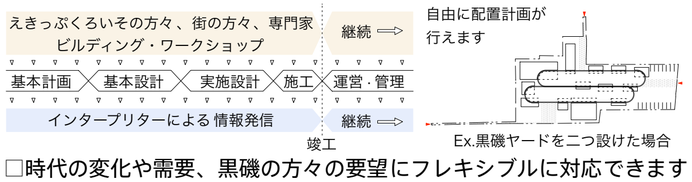
□設備インフラを多系統とし、災害時の避難拠点としても活躍できます

多くの方々が訪れる公共施設としての快適性の確保を基本に 、継続的な運営に対応した省エネ化をはかる効率的なシステムを構築し、環境負荷の軽減など、環境負荷にも配慮したいと考えています 。太陽光発電の備蓄、地中熱利用、バッテリーユニット によって、今後益々増えると予想される 電動自転車や電動カートのレンタル、充電にも対応します。また、プロパンガスから電力と給湯を供給できるコージェネレーションユニットを 利用することで、災害時等の避難拠点としての活躍も期待できます。



□石蔵の魅力を的確に伝えられるインタープリター(解説役)を育てます

地域活性化には、記号となる原石を発掘し、丁寧に磨き上げ、最高のクオリティで発信することが重要だと考えています。仙台＝牛タンは非常に分かりやすい記号です。我々は、黒磯＝石蔵という記号をつかって、他に類をみない魅力、個性的な施設づくりを目指します。また、この記号をSNS等で全世界に発信し拡散していき、それに追随して黒磯の他の部 分にもスポットがあたっていく流れが理想です。こういった良い流れを作るためには、「えきっぷくろいそ」の方々の他にも 黒磯出身のインタープリターやNPOサポーター、デザイナー、専門家とチームで取り組んでいきたいと考えています 。



□時代の変化や需要、黒磯の方々の要望にフレキシブルに対応できます

現時点で必要とされている機能や「えきっぷくろいそ」の議論も 、今後変化していくことも考えられます。石蔵や空き家の構造を 大事に使いつづけ、内部の仕様や機能を時代のニーズによって変化 させていける改修方法を専門家を交えた ワークショップ 等で継続的に議論していきたいと考えています。